

美味しい「ぶどう」をお届けします。



大田市ぶどう生産組合

大田市はぶどう産地

大田市ぶどう生産組合は、鳥井町を中心とした12戸の農家の皆さんが、540㎡でぶどうを栽培しています。歴史のあるぶどうの産地で、親子3代にわたりぶどうを生産している農家もあります。また、20〜40代の青年の多い、とても元気な組合です。

栽培しているぶどうの品種は、デラウエアを中心に、巨峰、ピオーネの大粒系も栽培し、全体で約40トンを収穫しています。

近年は、鮮やかな紅色のゴルビーや新品種であるシャインマスカットにも取り組んでいます。

地域とともに

今年から、この大田市ぶどう生産組合の舵取りを任されたのが、有吉誠志さん(51歳・下写真)です。



有吉さんが妻の由美子さんと鳥井町で就農したのは、平成9年のこと。大田市にゆかりのないイターンで、市内では先駆者的なイターンでの就農者です。現在は、82㎡でぶどうを栽培しています。

若き組合長の有吉さんは語ります。

『新規就農者として、この地に移り住み、ぶどう栽培を始めて13年目になりました。周りの方々に支えられ、励まされここまで来ることができたことを心より感謝する毎日です。』

さて、大田市ぶどう組合には、ベテランの生産者に加え、しっかりとした後継者の若者が育ってくれています。新品種への取組みも彼らが中心となって活気を帯びてきています。「大田

産地のバトン

近年、全国的に「農業」は高齢化、担い手不足が進み、大田市では、その状況が顕著に現れています。

大田市ぶどう生産組合でも、高齢化は進みつつありますが、新たな担い手である後継者が次々と育っています。

ぶどうの産地を「地域で支える」、「地域で守る」意識が高いことが、その要因です。

産地を支えてきた先人に対する尊敬の思いの強さや産地を継承し拡大を目指す若者への思いやりの深さが、組合を支えています。

こんな情熱的な農家の皆さんが丹精込



この大田市ぶどう生産組合に新たな仲間が増えました。今年から新たに就農した小野健さん(25歳・左写真)です。

はじめの一步

のぶどう」も彼らの輝きを受けて更に実り豊かになっていくことでしょう。

消費者の皆さんに喜んでいただける、高品質のぶどうをより多く出荷できるように、更なる努力を重ねている日々です。これからも大田のぶどうをよろしく願います。』

小野さんは、県立農業大 学校卒業後、県農業技術センターでぶどう栽培を学び、両親の築いてきたぶどう園69㎡を引き継ぎ、農業経営を始めました。

小野さんの熱い想いを伺いました。

■引き継ぐきっかけ■
『本気でぶどうづくりを考え始めたのは、農業大学校を卒業する時ですが、今思えば、幼い頃に見た父のぶどうづくりがきっかけだったかもしれません。』

■目指す経営内容■
『島根のぶどうと言えばデラウエアで、今後中心品目に変わりませんが、少しずつ規模を拡大し、新品种であるシャインマスカットなどを増やしていきたいと思っています。』

■伝えたいこと■
『地域をはじめ全国の人に「大田のぶどう」を知ってもらえたら。今後はインターネットを使った情報発信なども考えたいです。』

夢が広がる小野さんの今後の活躍に期待します。



めて栽培した「おおだ」の『ぶどう』を是非ご賞味ください。

大田市ぶどう生産組合の若手農家の皆さん (右から)

宅和 健さん (41歳)
小野 健さん
原田武敏さん (29歳)
坂根拓倫さん (29歳)

お買い求めとお問い合わせ

デラウエア 2kg(11~14房) 3,000円
※送料は別途いただきます。

【インターネットでのお取り寄せは】
<http://www.ja-town.com/shop/c/cginzan/> (JAタウン 銀山のおくりもの)

JA石見銀山 営農推進資材課 ☎0854-84-9070